

令和3年度 第5回青梅市子ども・子育て会議 会議録

会議の概要

開催日時	令和4年2月7日(月)
開催場所	青梅市役所災害対策本部室(オンライン会議)
出席者	委員 奥田晃久(明星大学特任教授) 中村明子(市民委員) 野口綾乃(市民委員) 嶋崎雄幸(嶋崎税務会計事務所所長) 池田政教(青梅商工会議所事業部部長) 高木博康(青梅市保育園理事長会副会長) 宮川美子(青梅梨の木保育園園長) 横山牧人(青梅私立幼稚園協会会長・青梅幼稚園園長) 荒井雄一(青梅市立成木小学校校長) 空野竜雄(株式会社モアスマイルプロジェクト事業担当) 栗原久美子(特定非営利活動法人青梅こども未来副代表理事) 関山利行(青梅市民生児童委員合同協議会理事)
	事務局 渡辺(子ども家庭部長) 加藤(子育て推進課長) 濱野(子ども家庭支援課長) 原島(健康課長) 太田(子育て推進課子育て推進係長) 並木(子育て推進課保育・幼稚園係長)
議事	○ 答申 特定教育・保育施設の利用定員の設定について ○ 報告事項 (1) 令和4年度青梅市子ども・子育て会議の開催予定について
傍聴人数	0人
配布資料	会議次第 資料1 特定教育・保育施設の利用定員の設定について(答申) 資料2 令和4年度青梅市子ども・子育て会議開催予定(案)

議事要旨(口述筆記ではなく、発言の趣旨をまとめたものである。)

発言者	発言要旨等
事務局	令和3年度第5回の青梅市子ども・子育て会議を開催する。本日も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、Zoomによるオンラインでの参加もしくは本会議室にて参加の場合は、委員にマスクの着用をお願いし、事務局の人数を縮小して感染症対策を行いながら進めていく。 青梅市子ども・子育て会議条例第5条第2項により、定足数に達しているため本会議は成立していることを報告する。また、議事録作成のため本日の会議も録音させていただく。
事務局	これ以後の進行は会長にお願いする。

会 長	議事に沿い進行する。3. 答申について、事務局の説明を求める。
事務局	<p>それでは、3. 答申について説明する。前回の会議で協議いただいた認定こども園の利用定員の変更に伴う「特定教育・保育施設の利用定員の設定について」会を代表して会長から市へ答申をお願いする。</p> <p>オンラインによる会議開催のため、代理が答申書を受領する。</p>
会 長	次に4. 報告事項（1）令和4年度青梅市子ども・子育て会議の開催予定について、事務局から説明を求める。
事務局	<p>それでは、（1）令和4年度青梅市子ども・子育て会議の開催予定について、ご説明する。資料2をご覧いただきたい。</p> <p>委員の皆様には、令和3年度より2年間の任期で委員を委嘱しており、令和4年度においても異動等により委員の活動に支障がなければ、本会議のメンバーで会議を進めていく。また、新型コロナウイルスの状況により、今後もオンラインとの併用により会議を進めていく予定である。</p> <p>令和4年度においては、全5回の会議を予定しており、主な会議内容は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市からの諮問事項 ・第2期青梅市子ども・子育て支援事業計画の検証（令和3年度分）について ・第2期青梅市子ども・子育て支援事業計画の中間年の見直しの有無について ・その他 <p>となっている。</p> <p>青梅市では、令和2年度から5か年を計画期間とする第2期青梅市子ども・子育て支援事業計画にもとづき事業を展開しており、本年度も第3回会議で、令和2年度分の事業計画の実施状況の検証を行ったところだが、来年度において、令和3年度の事業検証を行っていく。</p> <p>また、来年度の令和4年度においては、本計画期間の中間年に当たることから、計画の中間年の見直しを行うか否かを協議していく予定である。詳細については、来年度の会議の中で改めて説明する。</p> <p>来年度の会議日程につきましては、予め事務局で開催予定（案）を調整した。多くの委員の参加が難しい日程がなければこの予定で開催したいと考えている。正式な開催通知は、会議開催の1か月程度前に随時案内していく。</p>
会 長	何か意見はあるか。
会 長	それでは、本件は報告事項のため、報告を受けたとして次に進めていく。
会 長	その他、委員から何かあるか。
委 員	<p>昨年度の12月に日経新聞にて「共働き子育てしやすい街ランキング2021」で全国の180自治体に調査をかけたなかで160自治体から回答があり、青梅市が第8位にランクしたという記事が出ていた。この件で市として8位にランクされ、どのあたりが評価されたと考えているのか伺いたい。</p>
事務局	<p>日経 x woman（クロスウーマン）と日本経済新聞社による「自治体の子育て支援制度に関する調査」で青梅市が「共働き子育てしやすい街ランキング2021」で「第8位」の高評価を得た。昨年9位から順位をさらに上げて、2年連続の</p>

	<p>トップ10入りとなった。</p> <p>主な要因として、記事のなかにも掲載された部分であるが、保育園の入所のしやすさというのと、その保育環境が評価されたものとする。市内の保育園の入所のしやすさについては、実質待機児童がないため、すべての年齢で市内のどこかの保育園であれば入所することが可能である。環境においては、保育園には園庭というものがあるが、市ではすべての保育園にて基準以上の広さの園庭があり、園庭の整備率が100%となっている。また、きめ細やかな障害児保育として、公認心理師等による障害児巡回児童を実施している。加えて、都立青峰学園の特別支援教育コーディネーターの協力により、障害児巡回相談も行っている。こうした取組であったり、体制づくりが評価されたものとする。</p>
事務局	<p>全国では第8位、東京都においては第2位という結果は、市で取り組んできた子育て支援事業が評価されたということだが、今後については、保護者がどのように感じているかというのが課題の一つであると認識している。こうした結果を踏まえつつ、保護者のニーズを的確に捉えて、子育て支援の充実に取り組んでまいりたい。</p>
会長	<p>来年度に行う行政評価については、事務局から話があったとおり、量だけでなく質の部分として、市民や保護者がどう感じているかという視点が大切である。質の部分の評価については、指標をどう適用していくかが難しい部分があるが、可能な範囲でそういった内容を盛り込んでもらえるとうまいのではと考える。</p>
委員	<p>青梅市が「共働き子育てしやすい街ランキング2021」第8位にランクインして高い評価を得たということは、市内で子育て支援事業を行う私達にとっても大変喜ばしいことである。</p> <p>現場で見る様子であるが、コロナ禍の子どもたちの居場所というところで、このような状況のなか、乳幼児や小学生の居場所というのが減っている現状がある。子育て支援事業として、体育館のひろばで小学生の受入れを始めたところ、子どもたちが大変喜んで参加している状況が見受けられる。コロナ禍の特別な状況下ではあるが、子どもたちの育ちを支え、確保していかなければならないと感じている。</p>
事務局	<p>小学生の放課後の居場所として、学童保育所を市内37クラブで実施している。学童保育所によっては、定員を超える申請があり、待機が出ているクラブもあるため、比較的待機児童の多い東部地域の新町エリアに令和3年4月に新しく民設民営の学童保育所を開所したところである。こうした一部の地域のクラブで待機児童が発生していることから、将来の人口推計等も考慮しながら待機児童の対応策を引き続き検討してまいりたい。</p> <p>また、保育の質の面でも学童保育所は、放課後児童支援員という資格を取得した職員を各クラブに1人以上、配置することが必要である。公設民営の学童保育所については、平均で2.5人、民設では平均で3人の資格をもった職員</p>

	<p>が在籍しているところである。学童保育所の保育の質の向上というのを並行して進めてまいりたいと考えている。</p>
委員	<p>学童保育所に通所していない子どもたちの居場所づくりというのはいかほどになっているか。学童には通っておらず、学校と家庭を往来するようない子どもたちに対しては、放課後子供教室の夕やけランドの事業もあるが、そういった子どもたちへの居場所の確保はどう進めているか。</p>
事務局	<p>学童に通っていない児童に対する事業としては、子育てひろば事業を実施している。現状はコロナの状況もあり、乳幼児は受入れを行っているが、小学生は利用を御遠慮いただいている状況である。市民センターの体育館解放で行っている子育て支援事業については、感染状況を考慮しながら、学童等に通っていない子どもたちに対し、計画に沿ってどのようなことができるか検討してまいりたい。</p>
会長	<p>その他、事務局から何かあるか。</p>
事務局	<p>その他として2点の報告をする。</p> <p>はじめに、市内の子どもたちに関する新型コロナウイルスの感染状況を報告する。令和4年1月以降、感染力の強いオミクロン株の影響もあり、都内では感染者数が急増した。</p> <p>市内の保育所や、幼稚園、学童保育所等でも職員や児童の感染が報告されている。個別の内容は差し控えるが、令和4年1月からの期間で保育所では職員・園児で約100人程度、学童保育所では職員・児童で約30人程度の感染が確認されている。</p> <p>この間に、保育所1園が一定期間の閉園を行ったところである。また、各学校においても、いくつかの学校で、一定期間の学級閉鎖や学年閉鎖等が行われたところである。</p> <p>市や教育委員会、関係機関が協力し、保健所等の指導や助言により感染症対策を行いながら対応している。また、保護者の皆様にも、随時、情報発信を行い対応している。</p> <p>続いて、2点目として、さきほど委員からも話があり、触れさせていただいていたが、日経 x woman (クロスウーマン) と日本経済新聞社による「共働き子育てしやすい街ランキング 2021」で青梅市が「第8位」の高評価を得た。</p> <p>このなかの調査項目にもなっている病児保育の実施について、昨年度から事業を開始したところだが、新型コロナウイルスの状況もあって、昨年度は利用の実績が少なかったところであったが、今年度は利用実績も多くなり、保護者のニーズに応えていっている。</p> <p>また、コロナ禍における子育て支援としては、休日診療所内にPCR検査センターを設置し、子育て世帯や出産前の妊婦を含む必要な方が検査を受けることができる体制を整備した。</p> <p>また、昨年の夏の時期となるが、市内の保育園・幼稚園・学童保育所等に勤務する職員への優先的なワクチン接種に取り組んだところである。各施設からは</p>

	<p>早くに接種することが出来たため、非常に良かったとの声をいただいている。このように、今後も子どもたちと日常的に接する機会の多い施設の安全・安心に向けた取組を積極的に支援していく。</p> <p>また、3回目のワクチン接種に向けてであるが、市内の保育士等への優先的なワクチン接種に向けて、担当部局と調整を図ってまいりたい。</p>
会 長	<p>大学でも、学生が保育所での実習を行う時期であるが、実習予定の保育所の園児や職員で感染者が出たため、保育園が一時閉園となり実習が受けられないという状況が都内でも発生していると聞く。青梅市においても、感染者が増加しているなか、子どもたちと携わる施設の方が感染症対策を行いながら運営を行っており、関係機関で協力して対応をお願いしたい。</p>
会 長	<p>それでは、次回会議を令和4年5月16日(月)、場所は2階災害対策本部室またはオンラインとして、令和3年度第5回青梅市子ども・子育て会議を閉会する。</p>

会議録を確認したことをここに署名する。

令和 年 月 日